

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

①知識・技能

- ・【言葉の特徴や使い方に関する事項】は、全国正答率 64.4%に対し、本校の正答率は 78.6%と、大きく上回った。5年生の時に課題であった主語と述語の対応は、全国正答率を 8%上回っているものの、数人が不正解なので満足はできない。
- ・【情報の扱いに関する事項】は、提示されているメモの書き表し方を説明したものを選択する問題で、10名以上が正解。不正解者は同じ選択肢を選んでおり、メモに書かれているウェビングマップの見方を理解できていないことが推測できる。
- ・【我が国の言語文化に関する事項】は、読書の記録をもとに、その人が読書を通してどんなことに気がついたか選ぶ問題の正答率が低かった。誤答の多くは、「読書の記録の書き方」に着目しており、授業で下級生に紹介するカードを作る活動を行った際に、書き表し方の工夫を学んだことが影響していると考えられる。また、複数のことに共通することを見出す力が不足していると言える。

②思考力・判断力・表現力

- ・【話すこと・聞くこと】は、全国正答率と同等の正答率だったが、オンラインでの話しで、「これが、実際に出題されたクイズが書かれたカードです。」という文章を読んで、実物を提示しながら話していると判断できなかつた子が多かった。半数近くの子が「引用して話した」を選んでおり、授業で学んだ用語だからという自分の経験で判断したと思われる。
- ・【書くこと】は、資料の言葉や文を用いながら3つの条件を満たして作文する問題の正答率が低かった。資料中のどの言葉を使うかは留意できたものの、結論を明記することができていなかった。無回答者がいなかったのは、1年前よりも大きく前進したと言える。
- ・【読むこと】は、全国正答率を 6.4%下回った。3問あったが、特に、物語文において登場人物の言葉に込められた思いに似た部分を、ほかの描写から見つける問題では半数しか正解していなかった。不正解者の大多数は、問題となっている文が会話文だったところに目をつけ、「不愛想に言いました。」という描写を選んでおり、描写から心情を捉えられていないことが分かる。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ・ことわざ・語彙を増やす問題・熟語・漢字などの基本的な言語事項に関しては、かっこタイムや宿題において、やり直しをしたり調べたりする学習を引き続き行う。
- ・国語科に限らずに、思考ツールを用いたり考えを図示したりする学習を行う時には、ラインの意味や図の見方などを考えさせる学習活動も大切にし、図示されたものの意味を読み取れるようにする。
- ・今回のテストの誤答の多くは、感覚や記憶に基づいた解答だった。描写をもとに、根拠をもって答えられるように、授業の中で、どの描写からどんなことが分かるのかを丁寧にあつかっていく。
- ・普段の単元テストとは、出題形式が違う問題であったが、無回答がほとんどなかったことは、児童が粘り強く問題に取り組めるようになった姿の表れだと言える。引き続き、粘り強く問題に取り組む気持ちを伸ばしていきたい。

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

①数と計算

- 対象問題数5問のうち、4問は全国正答率を上回った。特に、小数のわり算、問題文を読んで立式する問題、除数と商の大きさの関係をとらえる問題は、全国正答率を大きく上回った。4問中3問は選択式、1問は短答式であった。
- 350×2 の答えを基に、 350×16 の積の求め方と答えを書く問題は、全国正答率 56.9%に対して本校の正答率は 50.0%だった。記述式の問題で、単に 350×16 の計算を説明している間違いが多かった。

②図形

- 対象問題4問のうち、選択式の2問は全国正答率を上回った。一方、全国正答率を下回った2問は、短答式と記述式だった。特に、直径 22cm のボールがぴったり入る箱の体積を求める短答式の問題は、正答率が 28.6%（全国は 36.5%）であり再度授業で扱う必要がある。誤答の多くは、3.14 を用いて立式しており、ボールの体積を求めたことが推測される。また、類型外の解答をした児童もおり、問題場面を引き受けられていないことが分かる。

④変化と関係

- 対象問題3問のうち2問が全国正答率を下回った。道のりが等しい場合の速さについて時間を基に判断する問題は、全国正答率との差は小さいが、28.6%の正答率であり、再度授業で扱う必要がある。3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩く時間を求める短答式の問題は、全国正答率を20%も下回った。誤答の多くは10分と答えており、距離が10倍違うことに気づいたものの、その10をそのまま解答したことが推測される。（「3分の10倍」という考え方ができていない。）

⑤データの活用

- 対象問題3問すべてが全国正答率を下回った。問題形式は、短答式が2問、記述式が1問だった。
- 全国正答率 80.8%に対して、57.1%と特に差が大きかったのは、円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題で、正答の15%に対して16%または14%と1目盛りの数え間違えが多かった。

⑥全体

- 無回答はほぼ無く、あきらめずに問題に取り組む姿勢は伸びたと言える。
- 問題番号が進むほど類型外の解答をしている児童が増えている。（大問①と②は0人、⑤は10人）このことから、時間配分の力をつける必要があると言える。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ある計算を基に、与えられた計算の答えを説明する問題で、正しく計算できているものの説明が不足している誤答が多かった。計算力は伸びてきているので、説明の仕方を押さえたり練習したりする時間を授業の中で確保する。根拠と結論を意識させ、論理的に考える学習を継続的に行う。
- 速さの問題は、問題場面を十分にイメージできていないことが推測できるので、どんな問題でも図や数直線を使って、問題場面をイメージさせ、数量関係の見通しを持たせる指導を強化する。
- データの活用に関する問題は学級全体で定着が不足している。特に、グラフの数値の読み方など基本的なことは練習問題や授業中のやりとり等で全員の確実な理解を図る。
- 問題番号が進むほど類型外の解答が増えているので、限られた時間で問題を解く意識を高めながら、タイムマネジメントの力を伸ばす。かにつこタイムや宿題で、長い文章問題を解く経験を重ねる。

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：国語

- 「本文中の情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する」問題においては、正答率が県・全国を上回った。
- 「本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する」「本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する」「本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する」など、「問題文に書かれている内容を正しく読み取る」問題も、正答率が県・全国を上回った。
- △「話し合いの中の発言について説明したものとして適切な部分を○で囲む」などの問題は正解率が特に低い。このことから、「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力」「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す力」に課題があると考えられる。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- 話すこと聞くことの指導の充実
 - ・自分の考えが相手に伝わるように話すために、「自分の考えを分かりやすくするために、資料を用いて話す」学習を設定して指導する。また「必要に応じて質問しながら、相手の意見を聞く」という学習活動を設定して指導する。
- 漢字や語句の指導の充実
 - ・定期テストにおけるやり直しの指導を確実にを行い、定着を図る。
- 長文を読み慣れる指導の充実
 - ・長文に抵抗がある生徒が多い。家庭学習にも読む学習を取り入れて、速く読む力を育てる。

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：数学

- 全体および評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれにおいても、県正答率・全国正答率を大きく上回っている。また、「記述式」形式の本校正答率も県・全国正答率を大きく上回った。
- 「記述式」の本校「無回答率」は15.0%であり、全国・県と比較して、非常に良好な結果となっている。
- △領域別の「図形」において、県・全国正答率を下回っている。特に三角形の合同を基にした証明問題の正答率は0%であった。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- 図形では証明の手順を2学期の相似の証明の中で、基本的な構文を確認しながら記述指導を行う。また、証明に必要な根拠となる定理や合同条件なども、問題に合わせて復習しながら証明の指導を行っていく。
- 全国正答率を下回った生徒へ指導として、日々の授業の始まりに、その単元の復習となる基礎・基本的な問題に取り組み定着を図る。
- 引き続き個別の対応を柔軟に授業に取り入れ、困りのある生徒の支援を行う。習熟の度合いによっては、個別指導を行う。

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（児童質問調査）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

児童質問調査

- 早寝、早起き、朝食などの基本的な生活習慣は、家庭の協力もあり定着できている。
- 地域や社会、生活の向上のために役立つ意識が高い。
- タブレット活用の関心が高い。自分の考えや意見を伝えるのに有効なツールと捉えている。
- どの教科も大切な学習であると感じている。
- 授業の中で、課題を引き受け、話し合いで考えを深めることは意識されている。
- △家庭学習の時間は個人差がある。
- △「自分にはよいところがある」については、肯定的評価と否定的評価に分かれている。
- △「将来の夢や目標を持っている」についても肯定的評価と否定的評価に分かれていて、県・全国に比べて肯定的評価が若干低い。
- △算数は苦手なところがあるため「算数の勉強が好き」の肯定的評価が低い。

2 姫島村の児童質問調査の調査結果をふまえて

- ・自分の考えを持つところに若干の課題がある。課題提示までの流れの工夫や課題提示後の丁寧な見取り、視点を明確にした振り返りの設定等の授業改善を更に進めていく。
- ・教科の苦手な部分を補強して自信を持たせていく。
- ・自己肯定感が持てるよう、人間関係づくりプログラムの定期的実施や個々への見取りと声かけを継続的に行っていくとともに、全職員で情報交換を行い、組織的に実態把握と支援を行う。

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

小学校：学校質問

- ICTの活用により、校務の効率化が進んできている。
- 地域や家庭と連携した教育活動を推進することができている。
- 地域や保護者に対して、ホームページや学級通信等で情報発信をすることができている。
- 定期的にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと情報交換し、連携して相談できる体制ができている。
- △授業改善や教育活動の工夫等に取り組んできたことで、子どもたちは、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組もうとしてきているが、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発言することや発表することが不十分である。
- △授業におけるICT機器の活用は進んできているものの有効的な活用までには、至っていないのが現状である。研修も十分できていない実態がある。

2 姫島村の学校質問調査の結果をふまえて

- ・各主任を中心とした校内支援体制の充実を図る。
- ・ICT支援員を活用した研修を計画的に実施する。
- ・授業力向上と指導力向上を計画的・組織的に推進する。
- ・児童一人一人に配備されたタブレットの家庭での利用を促進する。

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（生徒質問調査）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

生徒質問調査

- 自分にはよいところがあると感じている。
- 自分とは異なる意見について考えることを楽しいと感じている。
- 人間関係は良好である。
- 学習において、理解できないところを見直し、次の学習につなげることができている。
- △情報機器の使い方について、家庭での約束を守れていない。
- △普段の生活の中で幸福感を感じる事が少ない。
- △周りの人と協力して課題解決をすることが苦手。
- △土日や学校休業日の1日の家庭学習時間が少ない。

2 姫島村の生徒質問調査の調査結果をふまえて

【中学校】

- ・授業には意欲的に取り組むことができているので、受験生として自分の進路実現に向け、1日最低2時間（土日は4時間）以上の家庭学習を目指したい。1日の計画を立てさせ、実行するように声かけをする。できない生徒については、放課後学習でさせるようにする。
- ・希望する生徒に対して個別の指導を行い、個人の進路実現に向けた学習をさせる。
- ・2学期は、体育大会や文化祭等の大きな行事があるので、3年生が中心となって取り組み、達成感を得られるようにしていきたい。また、3年生にとってはすべての行事において中学校生活最後になるので、クラス全員が協力し、取り組むことを促していく。

【 姫 島 村 】

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

学校質問紙

- ・各教科の指導方法
 - △英語科において、原稿を書かずに自分の考えや気持ちなどを発表する言語活動の機会が設けられていない。
 - △数学科において、実験等の活動を通じた学習の機会が少ない。
 - 各教科において、生徒のつまづきを意識した授業づくりができています。
- ・家庭学習
 - 家庭学習の課題について、校内の教職員で共通理解を図り、生徒の現状に合わせた課題の作成を心がけている。
- ・家庭や地域との連携等
 - 教育課程の趣旨を地域と共有する機会を設け、学校の課題について情報共有できた。

2 結果をふまえて

■教職員の授業改善・校内研究の推進

- ・言語活動を中心に、実験や観察などの活動を取り入れた授業改善。
- ・キャリア教育の視点を踏まえた授業の実施と、姫中生の知らない世界（外部講師による講話）を通じた自己肯定感の向上を図る。

■学校経営

- ・コミュニティースクールに向けて、地域・家庭・学校関係者との連携を深めていく。